

みんなの童話

ミミズのおんがえし



ミミズのおや子がこんな話を
ていました。
「ねえ母さん、きょうはこの家
の庭がにぎやかだねえ」
「そうね、なかまたちはしすかだ
ねえ」
「チヨキチヨキ・シヤキシヤキ
チヨキチヨキ・シヤキシヤキ
朝早くから、この家に庭師さん
たちが、庭木のせんでいにきてい
ました。」
「ねえ、ダン」虫さん、あなたも
ふまれないおつになさかね」
「おつさ、ミミズのおまえも土の
上におしりをたすなよ」
「わかってますよ。わたしには田

がないし、足もないので氣をつけ
ますよ」
庭師さんのハサミの音がひびき
ます。
庭師さんの草をかる音がひびき
ます。
「あ、やっとしすかになったぞ」
庭の小さな生きものたちが、
いつせいにうき出しました。
ミミズたちも、土の中ではたら
きはじめてました。土をくだいて空
気や水がとおりやすい土をつくり
ます。
むかしから地面の下の一ばんの
はたらきものなのです。
「あれ、母さんがいないぞ」
「さっきまでいたのに。きつと、
かれ草やっぱをあなたにいつぱい
ひっぱりこんでいるんだよ」
そのころミミズの母さんは、庭
師さんの軽トラックの荷台に、か
り終えた草や木といつぱいこのせ
られていくところでした。
車にエンジンがかかると、荷台
から、土の小さなかたまりといっ
しょにミミズの母さんは、「コンク
リート」の道におちたのです。
「あ、あつしつしつしつしつしつ

目のないミミズの母さんは、土
のにおいをさがしました。草のにお
いをさがしました。
けれどもどうすることも、すす
むこともできません。からだは、
だんだん弱っていききました。
「もう子どもたちとも会えない
か」そう思ったときでした。
この家の女の子が、学校から
帰ってきました。
「あ、ミミズだわ。こんなに弱っ
て、かわいそうに」
女の子は、いそいでミミズをひ
ろい上げると、手のひらにのせて
「死なないでね。死なないでね」
女の子は、ミミズがとてもかわ
いそうでした。
女の子の目から大つぶのなみだ
が、ミミズのからだにおちました。
「ねえ、生きてね。おねがいよ。
お庭にもどしてあげるから」
しあわせなことにミミズの母さ
んは、もとの庭の土の中にもどる
ことができたのです。
「母さん。母さん。どうしたの」
「母さん、こんなからだになつて」
「ミミズの子どもたちは、なきな
がり母さんのからだをつつもつう
にして、じつとよくなるのをまち
ました。
おんがえしつしつしつしつしつしつ

ミミズの母さんが、くねくねと
からだをうごかしたのです。
「あ、母さんが・・・」
「母さんー」
すえつ子のミミズが、母さんに
まきつきました。
「ありがとつ。みんなありがとつ。
もうすこしで、ごみといっしょに
すてられるところだったの。道にお
ちた母さんをたすけてくれたのは
この家の女の子なの。やさしいな
みだがわたしに命をくれたの。う
れしかったわ」
「母さん、ほんとによかったね」
「そうだ、みんなで力を合わせて
この家の庭をよい庭にしよう」
ミミズたちは、うねうね、くね
くねと土をたがやし、ふんを出し
はたらきました。
春になりました。
この家の庭の花だんに、色とり
どりの花がさきました。
「わーきれい」
女の子の声が地面の下のミミズ
たちの耳にもとどきました。
「よかったね、母さん」
「そうね、おんがえしができたわ
ね」
ミミズのおや子も大よろこびで
した。
しすかあそび やのかつしつ